

秘

1681

海軍公報

第四七五六號

海軍大臣官房

昭和十九年八月一日(火)

命令

官房備第七三號ノ六
昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

内令提
要登載

新設海軍軍用郵便所ノ事務開始期日ハ迫テ之ヲ定ム
昭和十九年七月三十一日
海軍大臣
表中第十六海軍軍用郵便所ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第十七海軍軍用郵便所	父島方面特別根據地隊	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	監督官 所長 兼務 員 (專任) 十六人	奏任 判任 員 十一人
------------	------------	--------	--------	-------------------------------------	----------------------

第二十四海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄「所員 專任 二人 判任」ヲ「所員 專任 四人 判任」ニ、
第二十七海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄「所員 專任 五人 判任」ヲ「所員 專任 十一人 判任 五人 雇員」ニ改ム
(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(内令提要卷一、六四ノ九頁)

通牒

官房備機密第三二八號ノ六
昭和十九年七月三十一日

内令提
要登載

海軍省副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒
昭和十九年官房備機密第三二八號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左ノ通改メラレ候
記

附錄部隊區別符表(其ノ一)中ニ

第一	特別基地隊	ウ四五五
マ	リアナ航空隊	ウ四五貳
東	カロリン航空隊	ウ四五參
西	カロリン航空隊	ウ四五四

秘海軍公報 第四七五六號 昭和十九年八月一日

一〇三五

<p>ヲ加フ</p> <p>同 (其ノ二) 中ニ</p> <table border="1"> <tr> <td>非島航空隊</td> <td>テ六登</td> </tr> <tr> <td>第三十一潜水艦基地隊</td> <td>テ六貳</td> </tr> </table> <p>ヲ加フ</p>	非島航空隊	テ六登	第三十一潜水艦基地隊	テ六貳	<table border="1"> <tr> <td>第三十三海軍軍用郵便所</td> <td>第三艦隊</td> <td>横須賀鎮守府</td> <td>第三艦隊</td> </tr> </table>	第三十三海軍軍用郵便所	第三艦隊	横須賀鎮守府	第三艦隊	<p>軍需糧第一〇一號ノ二</p> <p>昭和十九年七月三十一日</p> <p>海軍省軍需局長 海軍省經理局長</p> <p>關係各廳長殿</p> <p>本年軍需糧第一〇一號中改正ノ件通牒</p> <p>首題ノ件左記ノ通改正セラレ候</p> <p>記</p> <p>「生徒」ノ上ニ「職員及」ヲ加フ</p> <p>(参照) 軍需糧第一〇一號(昭和一九、五、二六海軍公報(部内限))</p> <p>○雜 款</p>					
非島航空隊	テ六登														
第三十一潜水艦基地隊	テ六貳														
第三十三海軍軍用郵便所	第三艦隊	横須賀鎮守府	第三艦隊												
<p>同 (其ノ四) 中ニ</p> <table border="1"> <tr> <td>第三防空幹部隊</td> <td>七登七登</td> </tr> <tr> <td>濠北航空隊</td> <td>七登七貳</td> </tr> </table> <p>ヲ加フ</p> <p>別表海軍軍用郵便所及同派出所一覽中「第十四海軍軍用郵便所」ノ項ヲ削リ第三十二海軍軍用郵便所ノ項ノ次ニ左ノ項ヲ加フ</p>	第三防空幹部隊	七登七登	濠北航空隊	七登七貳	<table border="1"> <tr> <td>監督官</td> <td>兼務</td> <td>一人</td> </tr> <tr> <td>所長</td> <td>專任</td> <td>一人 奏任</td> </tr> <tr> <td>所員</td> <td>專任</td> <td>二人 判任</td> </tr> </table>	監督官	兼務	一人	所長	專任	一人 奏任	所員	專任	二人 判任	<p>○書類再送ノ件</p> <p>當隊舞鶴在泊中自六月十七日至六月二十五日間ニ於テ受領セル書類(各部ニテ該期間ニ到達セリト認ムルモノ)一括事故ニ依リ亡失セルニ付再送相成度</p> <p>(第三十一魚雷艇隊)</p> <p>○事務開始</p> <p>第三百三十號海防艦機裝員事務所ヲ七月二十四日兵庫縣相生市播磨造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p> <p>電話番號 播磨造船所構内郵便局 二三八番</p> <p>○事務所撤去</p> <p>第二十七號海防艦機裝員事務所ハ七月二十日之ヲ撤去セリ</p> <p>○本日軍機秘海軍公報第一號(甲配付)發行セリ</p>
第三防空幹部隊	七登七登														
濠北航空隊	七登七貳														
監督官	兼務	一人													
所長	專任	一人 奏任													
所員	專任	二人 判任													



1683

海軍公報 第四七五七號

昭和十九年八月二日(水)
海軍大臣官房

○令 達

達第二四三號

大東亞戰爭中捕獲セル和蘭國税關監視艇「アレンド」ヲ帝國艦艇籍ニ編入シ左ノ通命名ス

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

第百八號哨戒艇

達第二四四號

大東亞戰爭中捕獲セル和蘭國驅潛艇(假稱第八十三號船)一隻ヲ帝國特務艇籍ニ編入シ左ノ通命名ス

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

第百二海軍工作部保管

第百十八號驅潛特務艇

官房機密第一一二二號

昭和十二年官房機密第八號外一件中左ノ通改正ス

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

昭和十二年官房機密第八號第二項及昭和十五年官房機密第四三

四號第二項ノ次ニ夫左ノ一項ヲ加フ

化學兵器手當ノ支給ヲ受クル者ニハ第一項ノ増給ハ之ヲ支給セズ

(參照) 昭和十二年官房機密第八號 海軍機密會計法規類集 八頁
昭和十五年官房機密第四四號 同 八頁

官房機密第一一二三號

損害補償及慰籍内規中左ノ通改正ス

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

第二條中「千圓」ヲ「五千圓」ニ改ム

(參照) 海軍機密會計法規類集一〇九頁

官房機密第二七一號

當分ノ間海軍病院ニ在院スル軍人軍屬ニシテ機能恢復促進ノ爲作業ヲ課スル要アルモノニ對シテハ左ノ各號ニ依リ被服物品ヲ貸與スルコトヲ得

昭和十九年八月一日

海軍大臣

一 貸與スベキ被服物品ノ品種及數量

秘海軍公報 第四七五七號 昭和十九年八月二日

一〇三七

作業服 一人ニ付 一組
 略帽 同 一個
 略靴 同 一組
 靴 下 同 二組

二 各病院ニ於ケル準備標準

海軍病院名	準備人員	海軍病院名	準備人員
横須賀	二〇〇	野比	六〇〇
吳	二〇〇	嬉野	六〇〇
佐世保	二〇〇	山中	二〇〇
舞鶴	二〇〇	大湊	二〇〇
徴ケ浦	二〇〇	高雄	二〇〇
別府	六〇〇	鎮海	五〇〇
岩國	六〇〇	戸塚	六〇〇
大村	六〇〇	賀茂	六〇〇
務島	六〇〇	海軍軍醫學校	六〇〇
湊	六〇〇	計	七六五〇

官房空機密第一四號ノ二六一
 昭和十九年七月二十一日

海軍大臣

横須賀、吳、佐世保、舞鶴鎮守府 司令長官殿
 大湊、鎮海、高雄 警備府 府 司令長官殿
 基準兵器簿ノ件通達
 艦船部隊特設艦船部隊基準兵器簿通信長主管（航空）ノ部別冊
 ノ通制定ス
 別冊ハ海軍航空本部長ヲシテ海軍航空廠長ニ送付ノ上所要ノ向
 ニ之ヲ配付セシム

官房經第七三一號

昭和十七年官房第五一七號中左ノ通改正ス

昭和十九年八月一日

海軍大臣

第一項中「内戦部隊」ヲ「鎮守府、警備府部隊」ニ、「又ハ配屬
 ノ特務艇ニ配置セラレタルモノ」ヲ「若ハ配屬ノ特務艇ニ配置
 セラレタルモノ又ハ臨時乗艇ヲ命ゼラレタルモノ」ニ改ム
 第二項ヲ削ル

附則

本令ハ昭和十九年七月十日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

（参照）海軍機密會計法規類集一三〇ノ三一頁

○ 通 牒

官房機密第一三四號ノ二

昭和十九年八月一日

關係各廳長殿
暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進
首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セラルルモノヲ除キ別冊暗號圖書
現狀表第三三號ニ依リ處理相成度
(別冊ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

經給第一三五號
昭和十九年七月三十一日
海軍省 經理局長

各支出官、資金前渡官更殿
給與通牒携行勸行方ニ關スル件通牒
首題ノ件ニ關シテハ昭和十八年經給第二六號ヲ以テ通牒致置候
處未ダ之方勸行不充分ノ爲給與處理上支障尠カラザル實情ニ付
嚴ニ勸行相成度

(參照) 昭和十八年經給第二六號海軍會計法規類集二卷六七四頁
航本機密第九四〇二號
昭和十九年七月三十一日
海軍省 軍需局長
海軍 航空 本部長

關係各廳長殿
航空揮發油丙(「アルコール」混合航揮)使用
ニ關スル注意ノ件申進

本年七月軍需二機密第六四七號ニヨリ一部練習機等ニ首題燃料
ヲ使用スルコトニ定メラレ候處本燃料實用ニ際シテハ差當リ左
記ニ留意相成度

一 氣化器調整ニ關スル件
概ネ左ニ依ルコト

發 動 器	在 來 ノ 調 整	航 空 揮 發 油 丙 使 用 ノ 際 ノ 調 整
天 風 一〇型	主噴口流量 毎分一七五〇g	調整變更ヲ要セス
天 風 二〇型	主噴口流量毎分 一三〇〇乃至一四〇〇g	毎分一七五〇乃至一八〇〇g 程 主噴口ニ交換スル要アリ
二型改一、二、三	主噴口日盛 「エコー」日盛	調整變更ノ要ナシ

二 混合燃料ニ對シ水分ノ混入ニ關スル件
(イ) 航空揮發油丙ハ二乃至三%程度ノ水分混入ニヨリ二層ニ
分離スル故「ドラム」罐燃料「タンク」等ノ密栓ヲ嚴重ニ
シ貯藏ニ當リ水分ノ混入吸濕ヲ極力防止スルコト
(ロ) 使用時嚴重ニ分離又ハ潤濁セルヤヲ調査シ分離又ハ潤濁
ノ状態ニアルモノハ使用セザルコト
分離状態ノ檢定法ハ内徑五耗程度ノ「ガラス」又ハ金屬管
ヲ「ドラム」罐ノ中ニ挿入シ上面ヲ密閉シタル後靜カニ引
上ゲ之ヲ「ガラス」容器ニ採取シテ狀況ヲ目視スルヲ可ト
認ム

三 (ハ) 濾過スル場合ハ目ノ細キ特製絹布等ヲ使用スルコト
腐蝕ニ關スル件

秘海軍公報 第四七五七號 昭和十九年八月二日

防蝕法ニ關シテハ目下研究中ナルモ取敢ヘズ燃料系統特ニ管接手、燃料可撓管、氣化器内部、濾網ノ點檢ヲ嚴重ニ實施スルコト

○雜款

○派遣隊設置

攻撃第一〇二飛行隊ハ千歳航空基地ニ派遣七月二十六日同基地ニ於テ事務ヲ開始セリ

追テ人事關係ハ同隊ニテ處理、給與ハ本隊ニ於テ處理ス同隊宛轉勤者ハ直接赴任セシメラレ度

(第五五三海軍航空隊)

○事務開始

第十四防疫班ハ七月十五日吳海軍病院内ニ於テ事務ヲ開始セリ

第三百二十五設營隊ハ七月二十日、佐世保海軍施設部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

驅逐艦機艙裝員事務所ヲ七月二十二日横須賀海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

第四十一號掃海艇機裝員事務所ハ七月十七日之ヲ撤去セリ

○殘務整理

第三〇一海軍航空隊ハ七月十日解隊殘務整理ハ當分ノ間洲ノ埒

海軍航空隊内ニ於テ之ヲ行フ

第三六一海軍航空隊ハ七月十日解隊殘務整理ハ鹿兒島市鹿兒島航空基地ニ於テ之ヲ行フ

宮崎海軍航空隊ハ八月一日解隊殘務整理ハ松島海軍航空隊内ニ於テ之ヲ行フ

○轉勤者旅行先

當隊八月一日開隊轉勤者ハ左ニ依リ旅行セシメラレ度
青森方面ヨリノ旅行者ハ小牛田、石巻經由、東京方面ヨリノ旅行者ハ仙臺經由、宮城電鐵尖本驛下車約一・五軒(徒歩約二十分) 徒歩ノ外利用便ナシ

(松島海軍航空隊)

○旅行順路

一 所在地 靜岡縣志太郡靜濱村
二 順路 東海道線藤枝驛下車―乗換―藤相鐵道上新田驛下車
徒歩約十五分(當基地ヘノ旅行者ニシテ燒津驛セラルル向多數ニ付特ニ注意アリタシ)

(燒津航空基地(假稱) 立準備委員事務所)

秘

1687

海軍公報

第四七五八號

昭和十九年八月三日(木)
海軍大臣官房

○令 達

内令第九〇五號

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

驅逐艦

第四十三號海防艦

内令提
要登載

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

横須賀鎮守府在籍

第四十三號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年七月三十日

海軍大臣

内令第九〇六號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

哨戒艇ノ部中「第百七號」ノ下ニ「第百八號」ヲ加フ

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令提
要登載

内令第九〇七號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

内令提
要登載

秘海軍公報 第四七五八號 昭和十九年八月三日

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

驅潛特務艇ノ部中「第百十七號」ノ下ニ「第百十八號」ヲ加フ

(内令提要卷三、四三頁参照)

内令兵第五八號

兵器造修規則中左ノ通改正ス

昭和十九年七月二十九日

海軍大臣

内令提
要登載

第五十八條 鎮守府司令長官ハ海軍艦政本部長及海軍航空本部

長ト協議ノ上兵裝公試ノ實施方案ヲ定ムベシ但シ同一鎮守府

管下ノ建造所ニ於テ造修スル同型艦ノ第二艦以降ノ兵裝公試

實施方案ハ之ヲ送付及協議ヲ爲スヲ要セス

官房需機密第二七二號

軍需支部及軍需支庫ニ於テ供給スル艦營需品、燃料等ノ供給範

圍及之ヲ左ノ通定ム

昭和十九年八月一日

海軍大臣

艦夕浦、占守軍需支部

一〇四一

主トシテ航空隊所要ノ艦營需品、燃料（潤滑油）、被服及糧食

四日市、徳山軍需支部
長崎、那覇軍需支部

燃料（潤滑油）、糸屑、古綿布及粗食
佐伯軍需支部

艦營需品、燃料（潤滑油）、被服（貸與品）及糧食
館山、鹿屋軍需支庫

主トシテ各航空隊所要ノ燃料（潤滑油）、糸屑及古綿布
女川、父島、宿毛、富江、大島、巨文島、串本軍需支庫

臨時所要ノ燃料（潤滑油）、糸屑及古綿布
附則

昭和十八年官房需機密第四六一號ハ之ヲ廢止ス

（參照）昭和十八年官房需機密第四六一號ハ軍需支部及軍需支庫ニ於ケル艦營需品、燃料等供給範圍ノ件ナリ（昭和十八年九月八日海軍公報（部内限）第四千四百八十七號）

○ 通 牒

海軍第一二五〇號

昭和十九年七月三十一日

關係各廳長殿

戰死者遺留品無賃輸送ニ關スル件通牒

海軍運輸本部長

首題ノ件ニ關シテ逋通省ヨリ別紙ノ通知有之候條了知相成度

（別紙）

鐵業制第二六六號

昭和十九年六月二十二日

鐵道總局業務局長
自動車局長

陸軍關係一般

戰死者遺留品ニ對スル特殊取扱ニ關スル件依
命通牒

小荷物ニ依ル戰死者遺留品ハ無賃ヲ以テ運送スルコトナリク
ルニ付七月一日ヨリ左記各號ニ依リ取扱相成度

追テ右荷物ノ運送ニ關シテハ其ノ性質上同時輸送方特ニ配慮
相成度

尙小荷物ノ取扱ヲ爲ス地方鐵道及軌道（連絡運輸ノ場合ヲ含
ム）並ニ省ト連絡運輸ヲ爲ス自動車線及航路ニ對シテモ同様
ノ取扱ヲ爲ス様通牒（地方鐵道及軌道ニ在リテハ鐵道軌道統
制會ノ指示）相成候

記

一 一般小荷物トシテ受託スルコト

二 受託ニ當リテハ別紙様式ノ證明書ヲ提出セシムルコト

三 差當リ第三種手荷物切符（切符甲、丙片）運賃表示ハ之ヲ
抹消シ各片表面餘白ニ（無）又ハ（△）ト表示スルコトヲ使用
シ得ルコト

（別紙様式）

(番 號)
戰死者遺留品證明書

託送年月日 昭和 年 月 日

輸送區間 自 驛 至 驛

品名筒數 戰死者遺留品 筒

右證明ス 昭 和 年 月 日 官 職 氏 名 團

備考

- (一) 本書ハ陸海軍ノ官衙、部隊又ハ艦船ニ於テ之ヲ發行スルモノトス
- (二) 本書ハ一口毎ニ發行ス但シ軍託送ニ係ルモノヲ同時ニ

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場 所	記事
八月十二日一三〇〇	故海軍少佐村上 強外諸勇士	高松地方海軍人事部長	高松市縣公會堂	佛式
同	故海軍軍醫少佐藤原博外諸勇士	大阪地方海軍人事部長	海 軍 會 館	同
八月十九日〇九三〇	故海軍少佐小林宇太郎外諸勇士	松江地方海軍人事部長	松江市公會堂	同

多數託送スル場合ハ數口分ニ付一通發行スルコトヲ得此ノ場合ハ著驛名ノ記入ヲ省略スルコトヲ得

○ 雜 款

○ 集會所設置

横須賀水交社名古屋集會所ヲ七月十七日名古屋市東區白壁町二丁目二番地ニ設置セリ (横 須 賀 水 交 社)

○ 事務所撤去

第三百二設營隊事務所ハ七月二十七日之ヲ撤去セリ

○ 宿所並ニ電話架設

海軍運輸本部長海軍少將堀江義一郎宅東京都澁谷區千駄ヶ谷五ノ八二六 電話 四谷 五八八五番

一五〇	一四〇	一三〇	一二〇	一一〇	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇
一五〇	一四〇	一三〇	一二〇	一一〇	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇
一五〇	一四〇	一三〇	一二〇	一一〇	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇
一五〇	一四〇	一三〇	一二〇	一一〇	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇
一五〇	一四〇	一三〇	一二〇	一一〇	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇

ニ改メ同表備考第一號中「驅逐艦」ノ下ニ「輸送艦」ヲ加フ
附則

本令ハ昭和十九年七月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第二表ノ改正規定中第三欄ノ二ニ關スル部分ハ昭和十九年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス
昭和十四年官房機密第五一七號ハ昭和十九年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

(參照) 海軍機密會計法規類集二一六頁

○通牒

官房機密第四八五號
昭和十九年八月四日
關係各廳長殿
海軍省 副官

内令
要登

秘海軍公報 第四七五九號 昭和十九年八月四日

軍極秘海軍公報ノ配付先指定ニ關スル件申進
官房機密第四六七號ヲ以テ八月一日以降軍極秘海軍公報發行セラレ候處同公報ノ配付先ニ關シテハ甲配付(各廳長ニ配付ス)及乙配付(各司令部並ニ關係各廳ノミニ配付ス)ニ區分セラルルニ付テハ自今同公報ニ掲載スベキ原稿ニハ必ズ「甲配付」又ハ「乙配付」ト指定相成度

○雜款

○司令驅逐艦指定
第四十一驅逐隊司令ハ七月二十二日司令驅逐艦ヲ驅逐艦多月ニ指定セリ

○旅費支給ニ關スル件

八月一日以降當隊ヘノ赴任轉勤者ニ對スル旅費(家族移轉料ヲ除ク)ハ總テ北海道網走郡美幌町迄前金拂ノコトニ取計ハレ度 (第七〇一海軍航空隊)

○事務所移轉

第二海軍療品廠ハ七月二十五日左ニ移轉セリ
場 所 大阪市東區安土町四丁目北御堂前(安土町ビルディング)

電話本町
三三六四番(廠長室)
三三六五番(總務部)
三三六六番(補給部)
三三六七番(會計部)

○事務所撤去

第百三十四號特設輸送艦裝員事務所ハ七月十五日之ヲ撤去セ

第五十六號驅潛艇裝員事務所ハ七月二十六日之ヲ撤去ス

第四十三號海防艦裝員事務所ハ七月三十日之ヲ撤去セリ

<p>海軍大尉岩佐 之七月十四日飛行訓練中遭難殉職七月十 八日臺南海軍航空隊ニ於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行セリ 海軍中尉古賀貫之七月十八日飛行訓練中遭難殉職七月二 十一日高雄海軍航空隊ニ於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行セ リ</p>
--

秘

1694

海軍公報

第四七六〇號

昭和十九年八月五日(土)

海軍大臣官房

○令 達

内令第九〇八號

昭和十八年内令第十一號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正ス

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

内令提
要登載

厚木航空基地

第一〇八一海軍航空隊

ヲ

厚木航空基地

第三〇二海軍航空隊

ニ改メ

松島航空基地

ヲ削ル

(内令提要別冊三〇ノ四一頁参照)

内令第九〇九號

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

呂號第五十潜水艦

内令提
要登載

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

海防艦 鶺鴒 來

右本籍ヲ佐世保鎮守府在籍

海防艦 鶺鴒 來

右警備海防艦ト定メラル

敷設艇 網 代

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

横須賀鎮守府在籍

敷設艇 網 代

右警備敷設艇ト定メラル

第一百八號哨戒艇

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

内令第九一〇號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定ム

第一百十八號驅潛特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

第一百八十九號驅潛特務艇

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

内令第九一一號

昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス

秘海軍公報 第四七六〇號 昭和十九年八月五日

一〇四九

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

内令 登載

佐世保防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第七十九號(佐)」ノ次ニ「第八十九號(佐)」ヲ加フ
第二十三特別根據地隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第二十	根據地隊	第八十八號(吳)
第二十一		
第二十二		
第二十三		
第二十四		
第二十五		
第二十六		
第二十七		
第二十八		
第二十九		
第三十		

(内令提要卷三、四八ノ二一頁参照)

内令第九二二號

特設船舶警戒部處務規程中左ノ通改正ス

昭和十九年八月一日

海軍大臣

内令 登載

第六條表中「小樽」船舶警戒部小樽支部

小樽	船舶警戒部小樽支部
大阪	船舶警戒部大阪支部

ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ四頁参照)

内令第九一三號

特設艦船部隊中左ノ通改正セラル

昭和十九年八月一日

内令 登載

海軍大臣

第二條第二號中「特設練習戰隊」ノ次ニ「特設對潛訓練隊」ヲ加フ

第十一章ノ八ノ次ニ左ノ一章ヲ加フ

第十一章ノ九 特設對潛訓練隊

第四十九條ノ三十四 特設對潛訓練隊ハ必要ニ應シ之ヲ置キ對潛訓練隊ト稱ス

對潛訓練隊ニ必要ニ應シ艦船又ハ特設艦船等ヲ附屬スルコトヲ得

第四十九條ノ三十五 對潛訓練隊ハ對潛艦艇ノ乘員タルヘキ者

ノ教育訓練及對潛術ノ實驗及研究ニ關スルコトヲ掌ル

第四十九條ノ三十六 對潛訓練隊ニ左ノ職員ヲ置ク

司令

隊附

第四十九條ノ三十七 司令ハ吳鎮守府司令長官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ隊務ヲ總理ス但シ教育訓練並ニ對潛術ノ實驗及研究ニ關シテハ海軍對潛學校長ノ區處ヲ受クルモノトス

第四十九條ノ三十八 司令缺員中又ハ事故アリテ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ將校軍令承行順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス

第四十九條ノ三十九 隊附ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

(内令提要卷一、四七頁参照)

内令第九一四號

昭和十八年内令第二千四百五十四號中左ノ通改正ス

昭和十九年八月一日

海軍

内令
登載

第四號ヲ左ノ如ク改ム

四 工事進捗程度寫眞

(イ) 同一建造所ニ於ケル同型第一艦

前月ニ比シ比較的變化少ナキ場合ハ其ノ旨報告シ寫眞ノ

提出又ハ送付ヲ省略スルコトヲ得

(ロ) 同一建造所ニ於ケル同型第二艦以降

寫眞ノ提出又ハ送付ヲ省略スルコトヲ得

(内令提要卷三、一二三ノ四ノ九頁参照)

内令第九一五號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和十九年八月一日

海軍大臣

内令
登載

佐世保鎮守府ノ部中第九五二海軍航空隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第九一六號

特設海軍補充部ノ所管、所屬、名稱及所在地ノ件申左ノ通改正

セラル

昭和十九年八月一日

海軍

内令
登載

横須賀鎮守府ノ部中

第一海軍補充部	トラツク	第一海軍補充部	サイパン
第二海軍補充部	ラバウル	第二海軍補充部	ラバウル

ヲ

第一海軍補充部

第二海軍補充部

第五海軍補充部

ラバウル

マニラ

ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ六〇頁参照)

内令第九一七號

特設海軍補充部處務規程申左ノ通改正ス

昭和十九年八月一日

海軍大臣

内令
登載

第二條表中「及ギルバート諸島」ヲ「(西カロリン諸島ヲ除ク)ニ改メ末尾ニ左ノ如ク加フ

第五海軍補充部 内南洋ノ一部(西カロリン諸島)及フィリピン群島方面行動及所在ノ各部

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

作戦上其ノ他ノ事情ニ因リ前項ノ分擔ニ依リ難キ場合ニ於テハ當該部長ハ相互協議ノ上一時彼此變更スルコトヲ得此ノ場

合ニ於テハ主タル部長ハ其ノ事由ヲ附シ所屬長官ニ報告スベシ

(内令提要卷一、三八ノ五九頁参照)

内令第九一八號

昭和九年内令第四百十六號別冊艦艇、特務艦艇機關使用限度標準表中別表ノ通改正ス

別表ハ海軍省軍務局長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十九年八月一日

海軍大臣 櫻田 虎丸

内令第九一九號 (軍極秘公報(乙配付)ニ掲載)

内令第九二〇號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年八月一日

海軍大臣 櫻田 虎丸

第二十二潜水隊ノ項中「伊號第七十七、」ヲ削ル

第三十四潜水隊ノ項中「呂號第三十六」ノ上ニ「伊號第七十七、」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第九二一號

驅潜隊編制中左ノ通改定セラル

内令提要 登載

昭和十九年八月一日

海軍大臣 櫻田 虎丸

第二十一驅潜隊ノ項中「第十八號」ノ下ニ「第二十三號、第三十七號、第三十八號」ヲ加フ

(内令提要卷一、七三頁参照)

内令第九二二號

昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年八月一日

海軍大臣 櫻田 虎丸

横須賀防備隊ノ項掃海特務艇ノ欄「第十一號(横)」ノ前ニ「第六號(佐)」ヲ加フ

紀伊防備隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第九十七號(阪)」ノ前ニ「第二十號(吳)」ヲ加フ

南東方面艦隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第二十號(吳)」ヲ削ル

第四警備隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第十六警備隊 第六十七號(鎮)

第四十一警備隊ノ項掃海特務艇ノ欄「第六號(佐)」ヲ削ル

第五十五警備隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第六十七號(鎮)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二二頁参照)

内令第九二三號

特設掃海隊編制中左ノ通改定セラル

内令提要 登載

昭和十九年八月一日

海軍大臣

第十七掃海隊ノ項ニ削ル

(内令提要卷一、一五一頁参照)

内令第九二四號

昭和十八年内令第二千五百六十六號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年八月一日

海軍

内令提
要登載

横須賀防備隊ノ項特設敷設艇ノ欄ニ「金城丸(横)」ヲ、特設
驅潛艇ノ欄「日就丸(横)」ノ次ニ「第七京丸(横)、第三利丸
(横)」ヲ、特設掃海艇ノ欄「東郷丸(横)」ノ次ニ「羽衣丸(横)」、
第七昭和丸(横)、第三關丸(横)、第二文丸(横)」ヲ加フ
父島方面特別根據地隊ノ項特設掃海艇ノ欄ニ「第八利丸(横)」、
慶南丸(横)」ヲ加フ

第五根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第三昭南丸(横)、第十一昭
南丸(横)、第七京丸(横)」、特設掃海艇ノ欄「第三關丸(横)」、
第二文丸(横)」ヲ削ル
第三十根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「鸚丸(横)」ノ次ニ「第十
一昭南丸(横)」ヲ加フ

第四十一警備隊ノ項特設敷設艇ノ欄「金城丸(横)」、特設掃海
艇ノ欄「羽衣丸(横)」及「第七昭和丸(横)、第八昭和丸(横)」
ヲ削ル

秘海軍公報 第四七六〇號 昭和十九年八月五日

第八十一警備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第三利丸(横)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

○通牒

教育機密第二六四號

昭和十九年七月二十四日

海軍省教育局長

内令提
要登載

各鎮守府參謀長一殿
各警備府參謀長一殿

海軍二等水兵(電信兵、暗號兵、電測兵、水
測兵及氣象兵タルベキ者ヲ除ク)ニ對スル機
銃教育ニ關スル件申進

對空機銃關係ノ教育普及ヲ要スルニ鑑ミ之方對策トシテ首題ノ
件當分ノ間左記ニ依リ實施ノコトニ取計ハレ度

記

- 一 二十五耗機銃(單裝)教育ノ爲約十五時間ヲ充當ス
 - 二 右ニ對スル充當時數ハ左ニ依ル
 - (イ) 二等水兵ニ對スル銃教育ハ當分ノ間中止ス
 - (ロ) 艦砲教練及水雷術ノ教務時數ヲ一部縮減ス
- 追テ補充兵、國民兵ニ對シテモ基礎教育期間中右ニ準ジ教
育實施ノコトニ取計ハレ度

艦本機密第一號ノ一三一八六

昭和十九年八月三日

一〇五三

關係各廳長殿

彈頭信管取扱ニ關スル件申進

信管ノ取扱ニ關シテハ屢々注意ヲ喚起セラレアル處先般某艦ニ於テ二十種砲零式通常彈ニ彈頭信管ヲ装着ノ儘彈丸積卸作業ヲ行ヒ彈頭部ヲ擊突信管雷管ヲ發火セシメタル事故有之候
右事故ハ幸ニシテ信管安全機構完全ニ作働セシメ爲テ大事ニ至ラザリシモ擊突ノ狀況ニ依リテハ安全裝置作働セズ大事ヲ生ズル虞有之信管装着ノ兵器ニシテ實用ノ機ヲ逸シタルモノハ遲滞ナク信管ヲ取外スベキハ火藥火工兵器取扱規則第三百三十八條ニ明示セラレアル所ニシテ此ノ際特ニ規則嚴守ニ關シ關係部下ニ對シテ注意喚起方取計相成度

○表 彰

防彈燃料「タンク」
金貳拾五圓 造機部 熔接工手 橋口 彌八
右者肩書ノ考案ヲ爲シ頭書ノ通佐世保海軍工廠長ヨリ技術賞與ヲ支給セラレタリ
航空修理發動機用鐵鋼及「アルミニウム」合金部品化學的洗滌法
金參拾五圓 發動機部 分折職手 大島 忠男
金參拾圓 同 一等分折員 中山 良平
金參拾圓 同 同 早川信太郎

金參拾圓 同 同 鶴岡 顯

航空修理發動機用（鐵鋼及「アルミニウム」合金）部品ノ固着炭素、鉛及「タール」質中ヨリ硝酸鉛ノ回收法
金拾五圓 發動機部 分折職手 大島 忠男
金拾圓 同 一等分折員 中山 良平
金拾圓 同 同 早川信太郎
金拾圓 同 同 鶴岡 顯

右者各肩書ノ考案ヲ爲シ各頭書ノ通第二海軍航空廠長ヨリ技術賞與ヲ支給セラレタリ
齒車「ピッチ」誤差計測器
金五拾圓 造機部 検査工手 池袋 正雄

右者肩書ノ考案ヲ爲シ頭書ノ通佐世保海軍工廠長ヨリ技術賞與ヲ支給セラレタリ
各種發條卷付機
金參拾五圓 機銃部 仕上職手 本馬 定
九九式二十耗二號機銃推進ばね支持金孔裝置
金四拾五圓 機銃部 機工職手 山崎 房吉
金貳拾圓 同 同 湯川 松男
九六式二十五耗機銃二型給彈管蓋取付孔内面取要具
金五拾圓 機銃部 一等仕上員 山田 平七
右者各肩書ノ考案ヲ爲シ各頭書ノ通豐川海軍工廠長ヨリ技術賞與ヲ支給セラレタリ

○雜 款
本日軍機秘海軍公報第二號（乙配付）發行セリ



海軍公報 號外

昭和十九年八月五日(土)
海軍大臣官房

〇 叙位

〇 昭和十九年三月三十一日 海軍中尉 越智 浩 敘從七位	〇 昭和十九年四月十九日 海軍少尉 樋渡 正美 同 片山 幸一 敘正八位	〇 昭和十九年五月七日 海軍中尉 氏家 和雄 敘從七位	〇 昭和十九年五月十四日 海軍少尉 大島 弘 同 萩原 三郎 敘正八位	〇 昭和十九年六月十日 海軍主計大佐 田雜 利紀 敘從四位(特旨ヲ以テ位一級進陞セララル)	〇 昭和十九年六月十三日 海軍中尉 田村 茂 敘從七位
〇 昭和十九年六月十四日 海軍司政長官 能澤外茂吉 敘從四位	〇 昭和十九年六月十五日 海軍中將 大野 一郎 同 栗田 健男 同 福川 良三 同 高木 武雄 同 山縣 正鄉 同 海軍大佐 阪木 敏 同 海軍少尉 明石吉太郎 同 齋藤信治郎 同 沖中 勇 同 海軍大尉 村上 龜三郎 同 杉本 清吉 同 金子 定三 同 島田 親義 同 藏屋 丑三 同 佐藤 正二 同 内田 正練 同 海軍主計大尉 藤屋 正二 同 海軍司政官 千栗 福壽 同 海軍少尉 飯野 亮 同 海軍中尉 武居 好雄 同 海軍少尉 富田彦二郎 同 海軍少尉 佐藤 京一 同 海軍少尉 森野米三郎 同 山本惣右衛門	〇 昭和十九年六月十四日 海軍少尉 百瀬 泰成 同 藤田 四郎 同 海軍中尉 越智 浩 同 海軍少尉 樋渡 正美 同 片山 幸一 同 海軍中尉 氏家 和雄 同 海軍少尉 大島 弘 同 萩原 三郎 同 海軍主計大佐 田雜 利紀 同 海軍中尉 田村 茂	〇 昭和十九年六月十五日 海軍中尉 藤田 四郎 同 海軍少尉 百瀬 泰成 同 海軍中尉 越智 浩 同 海軍少尉 樋渡 正美 同 片山 幸一 同 海軍中尉 氏家 和雄 同 海軍少尉 大島 弘 同 萩原 三郎 同 海軍主計大佐 田雜 利紀 同 海軍中尉 田村 茂	〇 昭和十九年六月十五日 海軍中尉 藤田 四郎 同 海軍少尉 百瀬 泰成 同 海軍中尉 越智 浩 同 海軍少尉 樋渡 正美 同 片山 幸一 同 海軍中尉 氏家 和雄 同 海軍少尉 大島 弘 同 萩原 三郎 同 海軍主計大佐 田雜 利紀 同 海軍中尉 田村 茂	〇 昭和十九年六月十五日 海軍中尉 藤田 四郎 同 海軍少尉 百瀬 泰成 同 海軍中尉 越智 浩 同 海軍少尉 樋渡 正美 同 片山 幸一 同 海軍中尉 氏家 和雄 同 海軍少尉 大島 弘 同 萩原 三郎 同 海軍主計大佐 田雜 利紀 同 海軍中尉 田村 茂

秘海軍公報 號外

(通各)										叙從六位										(通各)																	
同																																					
海軍主計中尉										海軍中尉										海軍司政官																	
永井茂樹	吉田英夫	伊藤卓三	安田章生	福山守	野村廣吉	太田文作	得田正人	能塚正夫	桐野正夫	井上伊勢松	岩本恒三郎	中川甚遠	石走清志	丸山保美	山本敷雄	清水藤平	伊藤虎平	鈴木準平	山田貢	黒住眞雄	小口福馬	小林喜一	松田文藏	阿部久一	原亨	磯長昌利	同										
海軍教授										海軍司政官										海軍司政官																	
叙正七位										海軍機關兵曹長										海軍兵曹長																	
海軍教授										海軍司政官										海軍司政官																	
林彰	青木孝二	江口正二	内藤宗一	宮本孝之	神村三郎	住之内勤	山之内博	井上肇	奥田喜一郎	坂井勉	白川英男	宇佐美榮一郎	溝内照次	齋藤逸平	柴田豐治	中野國夫	堀崎寅雄	川崎直鶴	奥田直鶴	師橋慶太郎	浦河團治	非村三義	加藤三四	磯田好雄	倉茂平吉	阪田勝三	同										
(通各)																																					
同																																					
海軍技師										海軍技師										海軍技師																	
藤野秀二	篠原資勇	松見資格	力石鎮男	朽木輝	日暮時郎	山内長政	木田政喜	寺泉佐吉	高橋義一	晴枝久藏	村井幹三	三谷策太郎	小林源藏	今村拓	堀川元康	高梨績太郎	市川四郎	金澤半二	出水義也	山本岩男	山口直英	坂口俊夫	多田伊久男	渡邊一弘	高須七藏	青村一藏	荒卷俊郎	同									

<p>同進級ノ 海軍少佐 岡部勇男以下</p>	<p>同進級ノ 海軍少佐 川西三郎以下</p>	<p>同進級ノ 海軍大佐 遠矢義國以下</p>	<p>同進級ノ 海軍大尉 西田三郎以下</p>	<p>同進級ノ 海軍大尉 西田三郎以下</p>	<p>同進級ノ 海軍大尉 西田三郎以下</p>	<p>同進級ノ 海軍大尉 西田三郎以下</p>	<p>同進級ノ 海軍大尉 西田三郎以下</p>
<p>○昭和十九年六月二十四日 海軍少佐 佐野 重士</p>	<p>○昭和十九年六月二十三日 海軍中尉 小林 巖</p>	<p>○昭和十九年六月二十日 海軍少尉 村上 治</p>	<p>○昭和十九年六月十八日 海軍中尉 伴 弘次 同 山本 幸一</p>	<p>○昭和十九年六月十八日 海軍少尉 花洲 茂</p>	<p>○昭和十九年六月十六日 海軍中尉 勝目 邦義</p>	<p>○昭和十九年六月十六日 海軍中尉 田村 明</p>	<p>○昭和十九年六月十六日 海軍中尉 田村 明</p>
<p>○正誤 昭和十九年六月十五日海軍公報(部内限) 號外二十二頁ヨリ三十七頁マデノ海軍主計中尉ハ海軍技術中尉ノ誤</p>	<p>○正誤 昭和十九年六月三十日 元海軍司政長官 能澤外茂吉</p>	<p>○正誤 昭和十九年六月三十日 元海軍司政長官 能澤外茂吉</p>	<p>○正誤 昭和十九年六月三十日 元海軍司政長官 能澤外茂吉</p>	<p>○正誤 昭和十九年六月三十日 元海軍司政長官 能澤外茂吉</p>	<p>○正誤 昭和十九年六月三十日 元海軍司政長官 能澤外茂吉</p>	<p>○正誤 昭和十九年六月三十日 元海軍司政長官 能澤外茂吉</p>	<p>○正誤 昭和十九年六月三十日 元海軍司政長官 能澤外茂吉</p>

秘

1703

海軍公報 第四七六一號

昭和十九年八月六日(日)
海軍大臣官房

○令 達

内令第九二五號

汽船 第三昭南丸

要令 登載

右特設驅潛艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 第八昭和丸
同 第五利丸

右特設掃海艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

昭和十九年八月一日

海軍大臣

内令第九二六號

昭和十六年内令第千二百二十三號海軍航空廠ノ分工場ヲ置ク地、呼稱及分掌事項ノ件中左ノ通改正ス

昭和十九年八月一日

海軍大臣

要令 登載

徳島縣板野郡

第十一海軍航空廠徳島分工場

ヲ

徳島縣板野郡

第十一海軍航空廠徳島分工場

沖繩縣島尻郡

第十一海軍航空廠沖繩分工場

ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ二四頁参照)

内令第九二七號

驅逐艦 春川

要令 登載

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

伊號第三百六十六潛水艦

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

昭和十九年八月三日

海軍大臣

内令第九二八號

大東亞戰爭中海軍機銃歴取扱規程ノ適用ヲ停止ス

昭和十九年八月四日

海軍大臣

要令 登載

(内令提要卷三、七〇七頁参照)

官房軍機密第一〇三三號

昌號委員會規程中左ノ通改正ス

昭和十九年八月一日

海軍大臣

要令 登載

別表副委員長ノ欄「第二海軍火藥廠長」ヲ「海軍省出仕(兼務)一」ニ

秘海軍公報 第四七六一號 昭和十九年八月六日

一〇五五

改メ委員ノ欄中「海軍省軍務局局長 二」ノ次ニ「海軍省兵備局第二課長」ヲ、「海軍省出仕 一」ノ次ニ「海軍省出仕兼軍令部出仕 一」ヲ加フ

(昭和十九年七月二十日海軍公報(部内限)本欄参照)

○通牒

教育機密第二八〇號

昭和十九年八月四日

海軍省教育局

各鎮守府參謀長殿

信號術(見張及信號專修)特技兵教程標準ノ件通牒

昭和十四年官房機密第六五八九號ニ依ル首題ノ件別紙第一及第二ノ通定メラレ候
追テ昭和十八年教育機密第一六六號ハ廢止セラレ候

(別紙第一及第二添)

軍需二機密第七二九號

昭和十九年八月五日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

航空燃料臨時海軍規格制定ニ伴フ取扱ニ關スル件申進

首題ノ件今般官房機密第二三〇號ヲ以テ制定セラレ候處右ハ

航空揮發油ノ増産ヲ計ル爲現行規格ノ一部ヲ變更セシモノニシテ貯藏、供給等ニ關シテハ區別ノ要アルモ整理上ハ「甲」「乙」「丙」ノ區分ニ關係ナク燃料經理規程ノ該當品種トシテ取扱相成度
追テ略稱及記號ハ左記ニ依ル儀ト了知相成度

記

品	種	略	稱	記	號
航空九一揮發油	甲	空九一揮	甲	A九一G	甲
航空九一揮發油	乙	空九一揮	乙	A九一G	乙
航空八七揮發油	甲	空八七揮	甲	A八七G	甲
航空八七揮發油	乙	空八七揮	乙	A八七G	乙
航空八五揮發油	甲	空八五揮	甲	A八五G	甲
航空八五揮發油	乙	空八五揮	乙	A八五G	乙
航空八五揮發油	丙	空八五揮	丙	A八五G	丙
航空八〇揮發油	甲	空八〇揮	甲	A八〇G	甲
航空八〇揮發油	乙	空八〇揮	乙	A八〇G	乙
航空八〇揮發油	丙	空八〇揮	丙	A八〇G	丙
航空七〇揮發油	甲	空七〇揮	甲	A七〇G	甲
航空七〇揮發油	乙	空七〇揮	乙	A七〇G	乙
航空七〇揮發油	丙	空七〇揮	丙	A七〇G	丙

航空機密第九三六五號

昭和十九年七月二十九日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

航空兵器改修通牒工事實施促進ニ關スル件照會

航空兵器ニ關スル各種改修通牒工事ハ緊急戰備上極メテ迅速ヲ要スルモノナル處書類、圖面ノ遲延不達等ニ基ク事務的處理及連絡不充分等ノ爲所定期日ノ工事完成ヲ阻害シツツアル實情ニアリ自今各航空廠、空技廠ハ通牒接受セバ別ニ指示アルモノノ外準備擔任區域内所在ノ艦船部隊ト密接ナル聯繫ヲトリ工事促進ニ關シ萬遺憾ナキヲ期セラレ度

○雜款

○集會所設置

佐世保水交社諫早集會所ハ七月十三日大村海軍航空隊諫早分遣隊内ニ設置セリ
(佐世保水交社)

○事務所撤去

驅逐艦桐原裝員事務所ハ七月二十五日之ヲ撤去セリ
第五號輸送艦廣裝員事務所ハ七月二十日之ヲ撤去セリ
敷設艇網代廣裝員事務所ハ七月三十一日之ヲ撤去セリ
呂號第五十潜水艦廣裝員事務所ハ七月三十一日之ヲ撤去セリ
海防艦鶴來廣裝員事務所ハ七月三十一日之ヲ撤去セリ

○轉勤者旅行先

自今當隊ヘノ轉勤者ハ北海道網走郡美幌町美幌航空基地ニ向ケ赴任セシメラレ度

(第七〇一海軍航空隊)

第一四一海軍航空隊、偵察第三飛行隊、偵察第四飛行隊、戰鬥第八〇四飛行隊ニ赴任者ハ鹿兒島縣鹿屋市鹿屋航空基地(古江線大隅野里驛下車)ニ向ケ旅行セシメラレ度

(第一四一海軍航空隊)

自今當隊ヘノ轉勤者ハ千葉縣匝瑺郡共和村香取航空基地ニ向ケ赴任セシメラレ度

(第七五二海軍航空隊派遣隊攻撃隊第二五六飛行隊)

○訂正

七月三十一日附海軍公報(部内限)合同海軍葬儀執行期日秋田地方海軍人事部ノ部八月二十二日ヲ同月二十一日ニ訂正

○正誤

本年官房軍機密第九四八號(七月二十日海軍公報(部内限)九一頁)別表委員ノ欄中「海軍艦政本部臨時資料部班員一員」海軍航空本部總務部第二課長

秘海軍公報 第四七六一號 昭和十九年八月六日

一〇五八

ハ「海軍艦政本部臨時資料部班員一。海軍航空本部總務部第二課長」ノ、「企科長」ハ「企

畫科長」ノ孰モ誤

○

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所	記事
八月十八日〇八二〇	故海軍少將榎 喜人太外諸勇士	佐世保海軍人事部長	佐世保市 海軍凱旋記念館	佛式
八月二十四日〇九〇〇	故海軍中佐尾辻秀一外諸勇士	鹿兒島地方海軍人事部長	鹿兒島市 西本願寺	同
同 一〇〇〇	故海軍少佐古川久吉外諸勇士	舞鶴海軍人事部長	舞鶴海兵團	佛式
八月二十九日同	故海軍技師棚田清吉外諸勇士	金澤地方海軍人事部長	東本願寺別院	同

○本日普通公報發行セズ

科													本										科口									
補			見張			吹			哨			號			信			務			勤			旗			項					
武技、體技、體操	普通學	口達傳令	砲術	見張教練	見張兵器	見張法	吹奏	操式	哨調	信號教練	信號器具	海軍信號法	陸軍信號法	海軍信號規程	陸軍信號規程	諸日誌記註法	海上衝突豫防法	航海兵器器具	諸法規	儀禮	旗章	旗章令、内外國ノ主ナル旗章			信號要務							
銃劍術、相撲體操、游泳	勤務ニ必要ナル「ローマ」字及假名遣	同上	陸戰要務、陸戰教練	同上	同上	同上	同上	同上	同上	手旗信號法	發光信號法	旗旛信號法	電氣信號燈及其ノ他信號兵器器具信號用	味方識別信號法	艦隊運動程式	當直記録記註法ニ同上ニ必要ナル氣象兵器觀測法、信號誌記註法	同上中ノ一部	同上中ノ一部	勤務ニ必要ナル諸法規	禮式令、禮砲令				同上								
			五	二	三五					二五	三〇	七	一									二四	本	三	豫	定	回	數				
九	三	二	五	二	二五	一	一			一五	六一	四	二	二	二	一	一	一	一	二	一	一一	四〇	本	二							
			四	一	三三					二〇	二〇	四	一	一	七							九二	本	一								
五	二	一	四	一	二〇					一〇	四〇	三	二	一	一	一	一	一	一	二	一	四三	本	一								
															○印ハ夜間ヲ示ス															記事		



1709

海軍公報 第四七六三號

昭和十九年八月八日(火)

海軍大臣官房

○令 達

内令兵第六〇號
 昭和十八年内令兵第九十二號火工兵器領收検査規則第三百三條
 及第五百五條中「各種通常彈炸藥(三式通常彈炸藥ヲ除ク)」ヲ
 「十五種砲以下(短十二種砲ヲ除ク)各種通常彈炸藥」ニ改ム
 昭和十九年八月七日

海軍大臣

官房軍第九五七號

昭和十七年勅令第五百五十二號ニ依ル海軍監獄及同分監ノ所
 屬、名稱及位置ヲ左ノ通定ム

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

所 屬	名 稱	位 置	分 監ノ 名 稱	位 置
支那方面艦隊	第一海軍刑務所	上海	第一海軍刑務所	青島
第二遣支艦隊	第二海軍刑務所	香港	第二海軍刑務所	漢口
第一南遣艦隊	第三海軍刑務所	南甯	第三海軍刑務所	廈門

内令兵第六〇號
要登載

秘海軍公報 第四七六三號 昭和十九年八月八日

隊 別	刑務所	支 所	位 置
第二南遣艦隊	第百二海軍刑務所	マカッサル	第百二海軍刑務所
第三南遣艦隊	第百三海軍刑務所	マニラ	第百三海軍刑務所
第四南遣艦隊	第百四海軍刑務所	アンボン	第百四海軍刑務所
海南警備府	海南海軍刑務所	三 亞	海南海軍刑務所
南東方面艦隊	南東方面海軍刑務所	ラバウル	海 口
第八艦隊	第八海軍刑務所	ブイーン	

(内令提要卷一、四三頁参照)

官房軍第九五八號

昭和十七年勅令第五百五十二號ニ依リ設置セラレタル海軍監獄
 ノ職員配置ヲ左ノ通定ム

昭和十九年七月三十一日

海軍大臣

隊 別	刑務所	支 所	位 置
第一海軍刑務所	臨時海軍監獄長	臨時海軍監獄看守長	臨時海軍監獄看守
	一	三内兼	十六内兼

内令兵第六〇號
要登載

一〇六一

第一海軍刑務所第一支所			一	五
第一海軍刑務所第二支所			一	五
第二海軍刑務所			二	九 內兼 務一
第二海軍刑務所支所			一	五
第一百海軍刑務所			二	十三 內兼 務一
第一百二海軍刑務所		一	三 內兼 務二	十七 內兼 務二
第一百二海軍刑務所第一支所			一	五
第一百二海軍刑務所第二支所			一	五
第一百三海軍刑務所			一	六
第一百四海軍刑務所			一	五
海南海軍刑務所		一	二	八 內兼 務一
海南海軍刑務所支所			一	五
南東方面海軍刑務所			兼務二	兼務五
第八海軍刑務所			兼務一	兼務二

参照 昭和十八年官房第一〇九七號ハ臨時海軍監獄ニ職員配置ノ件ナリ(昭和十八年九月三十日海軍公報(部内限))

官房人機密第一五八四號
第五海軍補充部職員中特務士官以下ハ所管ニ拘ラズ吳鎮守府在籍者ヲ以テ之ヲ補充スベシ
昭和十九年八月七日

海軍大臣

一〇六一

官房機密第一二八六號
昭和十六年官房機密第一二六三九號中左ノ通改正ス
昭和十九年八月七日

海軍大臣

第一項第六號中「特設魚雷調整班」ノ次ニ「特設設營隊」ヲ加フ
附則
本令ハ昭和十九年七月十五日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス
(参照) 海軍機密會計法規類集二三四頁

○ 通 牒

官房第五四九號
昭和十九年八月七日

海軍省副官

各 廳 長 殿

公文書ノ件名番號附點ニ關スル件申進

近來各廳ニ於ケル公文書類ニ對スル件名番號ノ附點適正ナラザルモノ有之機密事項ニ關スル公文書ニ普通件名番號ヲ附點シ或ハ同一機密事項ト認メラルモノニ機密件名番號ト普通件名番號トヲ混同附點スル等其ノ取扱區々ニ互リ機密保持上竝ニ事務處理上遺憾ノ點有之候ニ付自今首題ノ件ニ關シテハ當務者ヲシテ一層留意セシメラレ度

官房軍機密第一〇二八號
昭和十九年八月七日

關係各廳長殿

進水式ノ際御臨幸又ハ皇族御差遣奏請ニ關スル件通牒

從來戰艦航空母艦及一等巡洋艦ノ進水式ノ際ハ御臨幸又ハ皇族御差遣ヲ奏請スルコトニナリ居ル處時局ニ鑑ミ當分ノ内特別ノ場合ノ外奏請セザルコトニ定メラレ候條了知相成度

官房備機密第三一八號ノ七

昭和十九年八月七日

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

昭和十九年官房備機密第三一八號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附録所在地區別符表(其ノ二)中ニ

タ	ク	ロ	バ	ン	テ	貳參
---	---	---	---	---	---	----

ヲ加フ

附録部隊區別符表(其ノ二)中ニ

内令撰
要登載

内令撰
要登載

海軍省副官

海軍省副官

祕海軍公報 第四七六三號

昭和十九年八月八日

一〇六三

第 三 百 二 十 三 設 營 隊	ウ	四五六
第 三 百 二 十 二 設 營 隊	ウ	四五七
第 三 百 二 十 四 設 營 隊	ウ	四五八
第 三 百 二 十 五 設 營 隊	ウ	四九九
第 三 百 四 設 營 隊	ウ	四六〇
第 三 百 三 設 營 隊	ウ	四六〇
第 三 百 五 設 營 隊	ウ	四六貳
第 三 百 六 設 營 隊	ウ	四六參
同 ヲ加フ (其ノ二)中ニ		
第 十 四 防 疫 班	テ	六參
同 ヲ加フ (其ノ三)中ニ		
第 二 十 七 魚 雷 艇 隊	イ	壹參壹
同 ヲ加フ (其ノ四)中ニ		
第 五 〇 五 船 舶 防 空 隊	セ	壹七參
第 五 三 二 船 舶 防 空 隊	セ	壹七四

ヲ加フ

軍務一機密第六二〇號

昭和十九年八月一日

關係各廳長殿

海軍省軍務局長

北九州ノ空襲事例等ニ鑑ミ生産防空上特ニ緊急措置ヲ要スベキ事項ニ關スル件申進
首題ノ件ニ關シ別紙ノ通防空總本部業務局長ヨリ協力方依頼有之候條可然取計相成度

(別紙)

防業一九發第八五號

昭和十九年七月十四日

防空總本部業務局長

海軍省軍務局長殿

北九州ノ空襲事例等ニ鑑ミ生産防空上特ニ緊急措置ヲ要スベキ事項ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ本日別紙寫ノ通各都廳府縣長官宛通牒致置候條御了知ノ上格別ノ御協力相煩度此段及通知候也

(別紙)

防業一九發第八五號

昭和十九年七月十四日

防空總本部業務局長

各都廳府縣長官殿

北九州ノ空襲事例等ニ鑑ミ生産防空上特ニ緊急措置ヲ要スベキ事項ニ關スル件

去ル六月十六日敵米機ノ北九州生産地帯空襲ノ事例等ニ鑑ミ生産防空上特ニ緊急措置ヲ要スベキ事項左記ノ通ニ有之候條難ニ指示ナル工場防空指針並ニ本年四月以降ノ生産防空態勢強化ニ關スル通牒等ニ依ルノ外本通牒ニ基キ關係軍需監理部ヲ始メ關係地方官廳ト一層緊密ニ連絡シ都廳府縣、他官廳、警察、消防官署、市町村、工場、事業場等ノ責任者ニ於テ夫々擔當事項ニ關シ急速且強力ニ防空ノ整備強化ヲ實現シ以テ生産防空態勢ノ確立ニ關シ格段ノ御努力相成度此段及通牒候也
追テ今次ノ空襲ハ主トシテ爆彈ニ依ル攻撃ニシテ一般ノ空襲態様ト異リ居ルニ付之ヲ以テ空襲ノ一般態様ト速断スルコトナク左記事項ニ留意シ既往ノ指導方針ヲ益々強化徹底シ各種各様ノ空襲ニ對應セシムル様各生産關係責任者ヲ招集ノ上關係事項ノ強力ニ指示シ期日ヲ定メ之方成果擧揚ニ努メラレ度

記

一 生産防空指導力ヲ強化スルコト

(一) 都廳府縣ニ於ケル生産防空指導組織ヲ更ニ整備強化スルト共ニ警察消防官署等ノ最末端指導者ニ對スル指導教育ヲ徹底スルコト

(二) 工場、事業場、鑛山竝ニ電氣、瓦斯水道等供給施設及地方鐵道軌道通信、港灣等交通通信施設ニ於ケル防空責任者ノ

指揮能力ノ急速ナル向上ヲ圖リ且ツ一般要員ニ對スル指導教育ヲ徹底セシムルコト

二 生産防空隣保組織ヲ確立スルコト

(一) 空襲時ニ於ケル生産確保ノ爲重要工場、事業場等ヲ中心トシテ同一生産系列下ニアル協力工場並ニ同一地域内ニ於ケル工場、事業場及之ニ關聯スル供給、交通、通信又ハ防空關係諸機關トヲ以テ生産防空隣保組織ヲ急速ニ確立スルコト

(二) 右生産防空隣保組織ノ目的ハ空襲被害時ニ於ケル相互間ノ應援協力、轉換、應急復舊、情報連絡等ヲ主眼トシ共ノ組織ハ工場、事業場ノ配置、生産系列、防空要員數、附近ノ防空機關等現地ノ實情ヲ勘案シ上適切ナル組織トスルコト

三 防空警報發令時ニ於ケル作業計畫ヲ具體的ニ確立シ之ヲ徹底セシムルコト

(一) 工場、事業場ニシテ防空警報發令時ノ作業計畫(「工場防空指針」參照)未整備ノモノハ急速ニ整備確立セシムルト共ニ既整備ノモノニ付テハ再檢討ノ上努メテ實情ニ適合スル如ク具體的ニ確立セシムルコト

(二) 右作業計畫ノ内容及防空警報發令時ニ於ケル特設防護團、職場防空群等ノ活動要領ハ之ヲ幹部並ニ直接關係者ノミニ限定シテ承知セシムベキ事項ト全従業員ニ指示スベキ事項ニ區分シ指導訓練ノ徹底ヲ期セシムルコト

四 燈火管制施設ノ整備並ニ管制ノ徹底ヲ期セシムルコト

(一) 防空警報發令時ニ於テモ作業ノ繼續ヲ要スル工場、事業

場ニ於ケル燈火管制施設ヲ完備セシメ且管制ノ徹底ヲ期セシムルコト

(二) 工場周邊ニ於ケル一般ノ燈火管制ヲ徹底シ工場地帯全般ノ綜合的效果ヲ收メシムルコト

(三) 特ニ燈火管制下ニ於ケル懐中電燈燐寸等ノ使用ニ關シテモ特段ノ注意ヲ喚起シ要スレバ標識燈ノ整備ヲ圖ラシムルコト

五 要部ノ防彈片施設ヲ急速ニ整備セシムルコト

重要工場、事業場ノ要部並ニ爆撃ニ因リ二次的被害ヲ蒙ル虞大ナル箇所ニ對シテハ從前ノ指導ニ從ヒ更ニ一層創意工夫シ急速ニ防彈片施設ヲ整備セシムルコト

六 待避施設ヲ急速ニ整備セシムルコト

待避施設ハ既往ノ指導方針(「工場防空指針」二四頁參照)ニ從ヒ全従業員ヲ收容シ得ル様急速ニ整備セシムルコト殊ニ輕掩蓋ヲ強調スルコト

七 危險物有毒瓦斯等ヲ貯藏使用製造シアル工場ニ於ケル防空措置ヲ強化スルコト

(一) 爆發性、引火性、有毒性等ノ危險物(硝子製器具、エーテル、ベンゾール、アルコール、メタノール、アセトン、揮發油、油脂類、燐、金屬、曹達、鹽素、プロム、ホスゲン、亞硫酸瓦斯、カーバイト、細菌類等)ヲ原料製品トシテ使用スル工場、事業場(例、化學工場、製藥工場、燐寸工場等)ニ在リテハ必ズシモ生産上ノ重要工場ニ非ラザ

秘海軍公報 第四七六三號 昭和十九年八月八日

- ルモノニアリテモ特ニ一般消防防火施設ヲ強化スルト共ニ特殊消防、防火待避、救護、防毒等ノ設備、施設整備ニ關シ被害局限ノタメ特段ノ豫防措置ヲ講ジ併セテ之ガ運営ニ關スル防空措置ヲ強化スルコト
- (二) 之ガ爲該當工場ニ關シテハ急速ニ現地指導ヲ爲スト共ニ訓練ノ強化ヲ圖ルコト
- (三) 特ニ各種危險物ハ平時貯藏ニ付地窖ニ格納スル等必要ナル防空施設ヲ整備セシムルト共ニ常時使用スルモノニ付テハ空襲時ニ於ケル被害ヲ局限スル爲警戒警報發令ト同時ニ地下ニ格納スル等ノ方途ヲ講ゼシムルコト
- (三) 危險物タル原料製品ノ輸送系路搬出入ノ方法等ニ關シテモ併セテ空襲時ニ對處シ適切ナル措置ヲ講ゼシムルコト
- 八 電氣、瓦斯、水道等ニ付テハ需要側ノ調査ヲナシタル上供給停止ニ因ル二次的被害ノ防止對策ヲ樹立セシムルコト
- (一) 電氣、瓦斯、水道施設ニ付テハ需要ノ實情ヲ調査シ置キ被害時供給能力縮減セラレタル場合ニ於ケル供給ノ優先順位、復舊順位等ヲ具體的ニ定メ置クコト
- (二) 空襲被害ニ因リ供給停止又ハ溢流、放出等ニ依リ發生スル二次的被害防止ノ計畫ヲ具體的ニ策定セシメ置クコト
- (三) 特ニ電氣ト瓦斯、水道ト瓦斯、電氣ト水道或ハ三者ノ被害競合セル場合ニ於ケル應急措置ニ對シ萬全ノ措置ヲ講ゼシムルコト
- 九 工場ノ分散疎開ヲ強力ニ推進スルコト
- (一) 中央關係省ニ於テ決定セル工場、事業場等ノ分散疎開ニ

- 關シテハ既往通牒ノ趣旨ニ依リ協力ノ上疎開ノ推進ヲ圖ルコト
 - (二) 重要生産地帯ニ於ケル群小工場等ニシテ該地域防空上必要アル場合ハ可及的ニ之ヲ分散疎開セシムルコト
 - (三) 工場、事業場ノ内部ニ於テモ生産ニ支障ナキ不要不急ノ木造建築物等ヲ極力疎開セシムルコト
 - 一〇 被害情報ノ連絡通報並ニ指揮命令ノ傳達ヲ迅速確實ナラシムルコト
 - (一) 生産防空關係諸施設ニ電力、瓦斯、水道等ノ供給施設及鐵道、軌道等交通施設ノ被害時ニ於ケル急速措置ハ生産ニ至大ナル影響ヲ及ボスモノナルヲ以テ之等諸施設ノ被害情報ヲ迅速確實ニ連絡通報スル爲右生産諸施設ノ被害現場ト指揮中樞機關及指揮中樞機關相間並ニコレヲ關係防空諸機關トノ連絡方法ヲ具體的ニ定ムルコト
 - (二) 工場、事業場ニ於テハ指揮中樞本部ヲ整備強化シ適時適切ナル指揮命令ヲ迅速確實ニ傳達セシムルコト
- 兵備三機密第七〇七號
昭和十九年八月七日
- 海軍省兵備局長
海軍省經理局長
- 關係各廳長殿
- 小型徵備船舶船員給與ニ關スル件通牒
首題ノ件ニ關シテハ既ニ昭和十八年十一月七日契八機密第一八

號ノ一〇八六ヲ以テ通牒シタル處其ノ後機帆船漁船等小型徵備
船舶急増シツツアリ之等船舶乘組員家族中ニハ本人ヨリノ送金
ヲ主タル收入トナスモノ勘カラズ送金絶ヘタル時ハ一家ノ生計
困難ヲ生ズルモノアリ或ハ行動上乙船員ニ對スル船主送金不
意ノコトモアルニ付左記實行方特ニ配慮相成度

記

- 一、甲船員及徵用船員ニ付テハ採用又ハ徵用時必ズ家族渡ヲ請
求セシムルコト 現ニ家族渡請求手續未済ノ者ニ付テハ現配
屬應ニ於テ請求スル様指導ノコト
- 二、乙船員ニシテ船主ヨリノ送金不如意等ノ爲海軍ニ於テ直接
給料ヲ支給スルヲ適當ト認ムル場合ハ契約上甲船員トシテ取
扱フコト
- 三、乙船員ニシテ乘組船舶沈没後引續キ海軍關係船舶ニ轉乗セ
シメラルル者ハ甲船員トシテ取扱フコト

艦本機密兵航第四九六號

昭和十九年八月五日

關係各廳長殿

海軍艦政本部總務部長

九九式測深儀用補用送波器還納ノ件照會(航
海長主管)

各艦船ニ裝備ノ九九式測深儀一組ノ内補用送波器一個ハ内地最
寄海軍軍需部ニ還納方取計相成度

艦本機密第一一號ノ一二七二九

昭和十九年七月二十八日

海軍艦政本部總務部長

内國各監督官殿
首席監督官殿

艦船兵器造修用圖面取扱規程ニ關スル件通知

首題規程第四條、第十六條及第十九條規定ニ關聯ノ海軍艦政本
部長又ハ海軍艦政本部主務部長ノ承認スル圖面ノ監督官控ハ之
ヲ省略シ監督官控及會社控ノ連名トシ處理致スコトニ定メラレ
候條可然取計相成度

追テ右ハ資材節約ノ見地ヨリ定メラレタル次第ニ付監督官ノ
承認スル圖面ニ對シテモ本趣旨ニ則リ可然處理相成度
尙監督官ニ於テ特ニ控ヲ必要ト認ムル圖面ニ付テハ監督官、
會社間折衝ノ上適宜決定相成度

運本機密第一一八五號

昭和十九年七月三十一日

海軍運輸本部長

關係各廳長殿

軍用貨物鐵道輸送ニ關スル件通知

最近ノ鐵道輸送力逼迫ト軍用貨物ノ輻輳トニ鑑ミ輸送順序調整
ノ必要上海軍運輸本部及海軍運輸部(運輸部支部及出張所ヲ含
ム)ニ於テ取扱フ首題ノ件ニ關シテハ昭和十七年一月十四日海
軍機密第十一號海軍人員及軍用貨物鐵道輸送手續ニ依ルノ外當
分ノ間左記ニ依リ取扱フコトト致候

祕海軍公報 第四七六三號 昭和十九年八月八日

一〇六七

係屬ニ通報スルモノトス

一〇六八

記

一、輸送ノ區分

(イ) 軍用貨物ニシテ到着日時ノ確保又ハ急送ヲ要スルモノヲ
軍用(甲)トシ

輸送列車及連絡船便ヲ指定スルモノトス

(ロ) 軍用貨物ニシテ到着日時ノ確保又ハ急送ヲ要セザルモノ
ヲ軍用(乙)トシ

發送日ノミヲ指定スルモノトス

二、輸送ノ申込

左ノ各號ニ依ルモノトス

畧稱	區分	提出書類
軍用(甲)	到着日時ノ確保又ハ急送ヲ要スルモノ	海軍軍用貨物鐵道輸送申込書(甲)但シ申込書(甲)ノ準備ナキ向ハ申込書(乙)ノ摘要欄ニ「列車指定」ト朱書き送付スルモノトス
軍用(乙)	發送日ノミヲ指定スルモノ	同右輸送申込書(乙)

三、輸送計畫及通報方

(イ) 運輸部處理ノモノ

便宜方法ニ依リ甲、乙ニ區分シ輸送實施計畫ヲ關係各廳ニ通報スルモノトス

(ロ) 運輸本部處理ノモノ

軍用(甲)ニ對シテハ「海軍鐵道輸送計畫表(甲)」ヲ、軍用(乙)ニ對シテハ「同表(乙)」ヲ作成シ計畫事項ヲ各關

〇 雜 款

〇 事務所移轉

大阪海兵團(假稱)設立準備事務所ハ八月一日左ニ移轉セリ

大阪市住吉區杉本町(阪和線杉本町驛ヨリ約三分)

〇 事務開始

第百五十七號特設輸送艦艇裝員事務所ヲ七月十八日尾道市外日立造船株式會社向島造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第七號輸送艦艇裝員事務所ヲ七月三十一日横濱市三菱造船株式會社横濱造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第四十六號海防艦艇裝員事務所ヲ八月一日神戸川崎造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

設置シ事務ヲ開始セリ